

地域の揺れやすさマップ

鳥取県西部地震の断層による地震の震度分布図 9 ページ

どこでも起こりうる直下の地震の震度分布図 9 ページ

地域の揺れやすさマップ 10 ページ

揺れによる建物被害マップ① 11 - 12 ページ

揺れによる建物被害マップ② 13 - 14 ページ

揺れによる建物被害マップ③ 15 - 16 ページ

揺れによる建物被害マップ④ 17 - 18 ページ

伯耆町 地震防災マップ

マップを見て、こんなことを考えてみてください。

- 自宅のまわりの安全性
- よく行くところやよく通るところの安全性
- 自宅や通っている学校や職場の耐震性
- 大きな家具や家電製品の位置や就寝場所などにより家の中で危険なところはないか？

このマップについて 「伯耆町地震防災マップ」は、伯耆町に大きな被害を及ぼすと考えられる地震を想定し、地震が発生したときの揺れの大きさ（地域の揺れやすさマップ）や建物に被害をもたらす可能性（揺れによる建物被害マップ）を表したものです。今後発生する可能性がある地震について町民の皆さまに関心と知識を持っていただき、日頃からの備えをしていただくことを考え、地震防災マップ（揺れやすさマップ・揺れによる建物被害マップ）を作成しました。

地域の揺れやすさマップとは

地域の揺れやすさマップとは、想定される地震が発生したときの揺れの大きさ（震度）を約50m四方の「メッシュ」単位で表したものです。

地震による地表での揺れの強さは、主に「地震の規模（マグニチュード）」、「震源からの距離」、「表層地盤」の3つによって異なります。一般にはマグニチュードが大きければ大きいほど、また、震源から近ければ近いほど地震による揺れは大きくなると考えられます。また、マグニチュードや震源からの距離が同じであっても、表層地盤の違いによって揺れの強さは大きく異なり、表層の地盤がやわらかな場所では、かたい場所に比べて揺れは大きくなります。これらの3つの条件から、地表面における揺れの大きさを推定し、地図上に表しました。

想定した地震

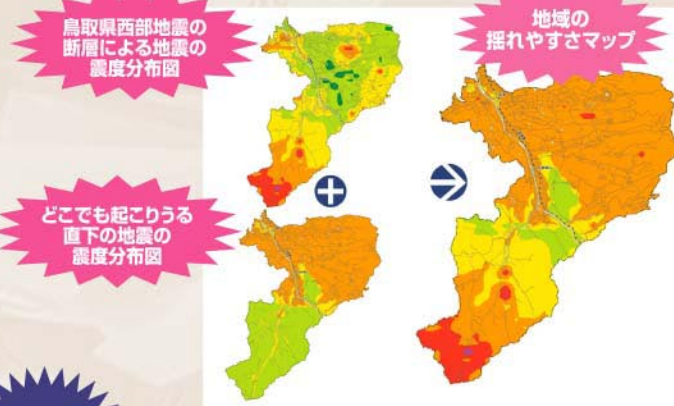
「鳥取県地震防災調査研究」（H17.3）の成果から、伯耆町で特に震度が大きくなる「鳥取県西部地震の断層による地震」が発生した場合に加えて、「どこでも起こりうる直下の地震」のこれら2つのケースを想定してマップを作成しました。「どこでも起こりうる直下の地震」とは全国どこでも未知の活断層による地震が発生する可能性があり、この地震の規模は最大でマグニチュード6クラス（最大M6.9）になる、という考え方にもとづいています。この「どこでも起こりうる直下の地震」を想定する場合は、被害を検討する場所の直下で発生すると仮定します。

さらに2つのケースの震度想定のうち、メッシュ毎に大きいほうの震度を採用したのが「地域の揺れやすさマップ」です。

（鳥取県の想定断層の図）



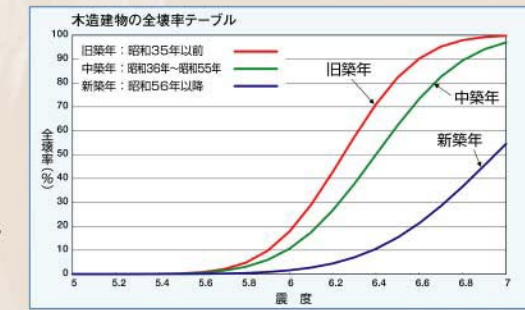
分類	名称	マグニチュード
特定の活断層	鳥取県西部地震の断層による地震	7.3
未知の活断層	どこでも起こりうる直下の地震	6.9



揺れによる建物被害マップ

「揺れによる建物被害マップ」とは、メッシュ毎に大きいほうの想定震度「地域の揺れやすさマップ」となった場合に、建物の分布状況から計算した建物全壊率・半壊率の分布を約50m四方の「メッシュ」単位で色分けしたものです。伯耆町内の建物を建築年代別（昭和35以前、昭和36～昭和55、昭和56以降）、構造別（木造、非木造）、大字別に分けて建物への被害を計算したものを1つの地図としてまとめました。建物が無い範囲や、全壊・半壊する建物が無いと想定される範囲には着色していません。

●計測震度と建物全壊率の関係（構造別・建築年別）



出典：「地震防災マップ作成技術資料」内閣府